

文化力を活かした地域再生と「古典の日」の制定について

【関係省庁】文部科学省、文化庁、観光庁

京都府では、平成23年の国民文化祭・京都開催の成功に向け、市町村や文化団体等と連携し、開催準備に積極的に取り組んでいるところです。京都での国民文化祭開催は、我が国が世界に誇る文化・芸術の粋を国内外に発信し、文化創造立国を戦略的に推進していくためのモデルを示す国家的な使命があると認識しております。

このような意義を持つ京都で開催する国民文化祭を、「京都ならではの」の規模と内容にし、開催で高まった気運をその後も発展させていくために、国におかれましても、国家的事業として省庁を越えた積極的な取組をいただきますよう、次のとおり提案します。

＜京都府からの提案＞

- 1 国民文化祭を契機に、多様な文化の振興や府民の文化活動の活性化、次世代を担う人材の育成、文化による産業の創出など、文化力を起点として、新たな地域・経済・観光の活性化モデルを京都から発信するため、文化による地域活性化を総合的に支援する「**文化力起点地域活性化制度（仮称）**」を創設すること。
- 2 日本の心のふるさと・京都において、国民文化祭が開催される平成23年を国内における「京都文化年」と位置付け、各省庁の文化関連イベントを京都で集中的に開催するとともに、これを機に、国においても、**古典文化振興法（仮称）**を制定し、日本の心や文化を伝える古典に触れ、親しむ日として、**11月1日を「古典の日」とすること。**
- 3 国民文化祭・京都2011開催で高まった気運を発展させるとともに、次代につなげていくため、**国が実施する文化振興事業を京都府で開催すること。**

京都府の現状・課題等

【文化力起点地域再生事業（仮称）の概要】

<趣 旨>

少子・高齢化や過疎化の進展により、地域の伝統文化の担い手不足や地域を元気にする文化活動が衰退しつつある中で、国民文化祭を契機とするなど、埋もれた地域文化の掘り起こし、郷土芸能の復活・伝承活動を進めるとともに、それに関わる人材やネットワークを地域の文化力として位置付け、文化力による日本の再生を目指す。

<地域の文化力を起点とした地域再生メニュー（例）>

- アーティストを地域に派遣し、地域の文化を再評価させ、それを住民や子供達に外部からの視点として提示することで、文化的覚醒を促進
- 埋もれてしまった、又は、自らは気づかない地域の文化を見出し、担い手を元気づけ、外部に向け発信、誘客する人材（カルチャー・マネージャー）を育成
- 若手アーティストによる地域滞在型ワークショップ、空き屋・廃校舎等を活用したアーティスト・イン・レジデンス
- 地域の住民や子どもたちが、質の高い「ほんまもん」の芸術作品に触れ創作に挑む機会を提供する一日弟子事業
- カルチャー・マネージャーや地域住民が旅行会社と連携した地域発・生活文化体験型観光の開発・実践
- 地域と大学が連携して、文化によるまちおこし・アート作品の創作 等

【古典の日推進の取組】

○平成 20 年の源氏物語千年紀を機に提唱された「古典の日」宣言の趣旨を継承発展させるため、古典に親しみ次の世代に繋いでいくための様々な事業を展開

- ・古典の日記念ワークショップ 参加者 170 人
- ・古典の日記念シンポジウム 参加者 226 人
- ・古典の日推進フォーラム 参加者 2,919 人
- ・朗読コンテスト 応募者 216 人
- ・街かど古典カフェ（5 講座）参加者 150 人
- ・小・中学生による古典作品等の朗読・暗唱大会
参加者 3,320 人 など

○「古典の日」の法制化による全国民的意識啓発等の取組の推進



【京都府の担当部局】

文化環境部 国民文化祭推進局 075-414-4225
文化芸術室 075-414-4219